

## 平成28年度 学校総合評価

### 6 今年度の重点課題に関する総合評価

基礎学力の向上と基本的な生活習慣の確立を図り、生徒一人一人が自己の進路目標実現に向けて意欲的な学校生活を送ることができるよう5つの重点課題に取り組んだ。

学習活動では、授業への取組み状況や教師への要望アンケートをもとに、「授業の臨み方」等を活用し、継続的な指導を行い、単位修得率の向上に努めた。また、授業のユニバーサルデザイン化の推進に継続して取組み、分かる授業をめざし、教師一人一人が指導法の改善に取り組んだ。

学校生活では、全校集会や年次集会、交通安全教室等の機会を活かし、命の大切さを考える教育に取り組んだ。支援が必要な生徒に対しては、巡回指導員、スクールカウンセラー、特別支援キャリア教育コーディネーター等が連携し、生徒の多様な困り感の解消に努めた。基本的な生活習慣の向上及び心身の健康保持と環境美化に努めようとする態度の育成に努めた。特に朝食をしっかりと食べることの重要性を理解させる取組は今後も継続したい。安全面では、スマートフォンの取り扱いや薬物乱用防止、自転車の事故防止に重点を置いた安全教室を幾度も実施した。ボランティア活動を通じて、生徒自らが自発的に環境美化活動に取り組んだ結果、良好な人間関係の構築や社会のルールを学ぶことに結びついた。

進路支援では、早期に進路目標を意識させ、進路に望む意欲の向上と進路希望の実現を図った。年次の進行に合わせた進路ガイダンス、インターンシップ、進路特別講座等の実施により、勤労観や職業観の育成を図った。また、支援が必要と思われる生徒の就職支援の為、外部機関との連携を図った。就職支援教員を中心に企業開拓を粘り強く行うとともに、就職希望者に対して2～4社の「応募前企業訪問」を実施した。生徒一人一人へのきめ細かい指導で、進学・就職の進路目標100%を達成した。

特別活動では、チャレンジデーと称した遠足や体育大会、球技大会等の学校行事に「充実した学校行事だった」「よりよい人間関係が築けた」と答える生徒の充実度の割合が目標を達成した。読書指導では、図書貸し出し冊数の増加を目指した。図書館だより、読書会や教養講座等の広報活動を増やし、教師や生徒から推薦図書を推薦してもらうなど、生徒が本に親しむきっかけづくりを行った。

その他（総合福祉科）では、専門科目への意欲的な学習を目指して、生徒が地域との交流活動への参加を推進する取組を行った。併せて、現場実習や外部の講師を招いての介護技術公开发表の機会をとらえて、思いやりの心やコミュニケーション能力の育成を図った。年次の段階を考慮した介護技術試験の実施やユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業展開などが生徒の意欲的な学習につながった。この結果、技術と介護の心のレベルアップ、生徒の実習や資格取得への理解や意識が深まり、専門科目への学習意欲が向上した。また、「地域で必要な人材」の育成に結びついた。

### 7 次年度へ向けての課題と方策

- (1) 授業のユニバーサルデザイン化の一層の推進を図り、多様な生徒が皆分かる授業を提供する。
- (2) 朝食の大切さの理解と、摂取の習慣をつけさせるため、指導の工夫をさらに進める。
- (3) 地域の企業との連携を深め、社会人講話や職場見学会、インターンシップ等を体系的に実践する。
- (4) 学校行事の生徒全員参加の取組みをすすめ、充足感を満たす企画を検討する。
- (5) 読書指導として、図書室の利用価値を知ってもらうよい手立ての工夫をさらに検討する。
- (6) 資格認定や介護技術の修得を図るため、一層の授業のユニバーサルデザイン化を進める。

8 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

平成28年度 となみ野高等学校アクションプラン		－1－
重点項目	学習活動	
重点課題	基礎学力の向上	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 興味・関心にもとづき積極的に科目選択をする生徒より、消極的な科目選択をする生徒が少なくない。自己実現に向けた科目選択ができる単位制を十分に活かしているとはいえない。</li> <li>・ 進路や単位修得に関して不安を持っているが、日常的な家庭学習や選択した科目に対する授業の取り組み方も積極的とはいえないなど矛盾を抱えている。</li> </ul>	
達成目標	<b>単位修得率</b> <b>90%以上</b>	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 互見授業による指導法の改善と授業のユニバーサルデザイン化の推進。</li> <li>・ 授業及び休業中の課題提出の徹底と、家庭学習の習慣化を促す。</li> <li>・ 担任による面接や個別指導の充実、生徒の実態把握、意欲ある学校生活を促す。</li> <li>・ 授業や年次別学習等で生徒個々の学力の把握し、教科による個別指導の充実を図る。</li> <li>・ 国数英の「基礎学力コンテスト」の実施、年次・教科と連携強化。</li> <li>・ 学習状況調査、生徒の意識調査等各種アンケートの実施、分析と個人面接との関連づけ。</li> <li>・ 『履修の手引き』の改訂と科目登録ガイダンスの運営の工夫。進路目標に応じ卒業後を見通した主体的な科目選択ができる時間割編成の工夫。</li> <li>・ 長欠者に通信科目の選択を意識させ、学習の機会を確保する。</li> <li>・ 安易な科目選択ではなく、自己実現や学力の向上につながる科目登録の指導の徹底。</li> <li>・ 生徒が学校生活に意欲的に取り組めるような教務規程の改定。</li> </ul>	
達 成 度	<b>88.3% (昨年 86.0%)</b>	
具体的な取組状況	<p>&lt;単位修得状況&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ここ数年の取り組みとして生徒指導部と[授業の臨み方]を作成し、教員の共通理解を図るとともに生徒の確認期間を設け、継続的な指導に取り組んだ。</li> <li>・ 担任による個人面接や年次集会等で、授業に取り組む姿勢への意識付けを図った。</li> <li>・ 基礎学力の向上を目指し、進路指導部と教科が連携し、基礎学力コンテストを実施した。事前・事後指導にも重点を置き、基礎学力の定着を図った。</li> </ul> <p>&lt;授業改善&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導法の改善や生徒理解を深める機会として、互見授業週間を実施した。(年2回)</li> <li>また、生徒の普段の状況を見ることができるよう、すべての授業を互見授業の対象とするとともに、保健厚生部と連携し授業のユニバーサルデザイン化を継続した。</li> </ul> <p>&lt;学習・授業についてのアンケート&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への取り組み状況や教師への要望などについて12月に調査した。</li> </ul> <p>主な結果は以下のとおりである。( )内は、昨年度の結果である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「授業に真面目に取り組んでいる」91%(86%)</li> <li>「授業は自分にとってプラスになると考えている」82%(73%)</li> <li>「先生の説明はわかりやすい」87%(70%)</li> <li>「授業を通して学力がついたと思う」79%(69%)</li> </ul>	
評 価	<b>A</b>	ほぼ達成した
学校評議員の意見	<p>教員、各分掌が連携した授業改善の取組が進み、よい成果がでている。授業のユニバーサルデザイン化をさらに推進し、分かる授業、科目選択の工夫、単位修得率の向上を望む。</p>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習に対する意識が低く、真摯に授業に取り組む姿勢に欠ける生徒もいるので、進路指導部や生徒指導部と連携を強化し、生徒自身に自己実現に向けた学習の必要性について振り返る機会を設定する。</li> <li>・ 授業改善の方策として、互見授業週間、授業への意識調査および面接週間を継続する。また、ユニバーサルデザイン化を継続し分かりやすい授業に向けて保健厚生部との連携を強化する。</li> <li>・ 生徒の授業への取り組み状況の向上のため、インクルーシブ教育モデル事業での研修成果を生徒への意識づけに活かす。</li> <li>・ 共学講座で社会人受講生に発表の例示をしてもらうなど、社会人の有効な活用をはかり、授業力向上の工夫を行う。</li> <li>・ 長欠者に対して各年次と家庭やスクールカウンセラー等と連携し、心のケアを図り、高卒認定試験へのチャレンジや通信科目の積極的選択を進めるなど、単位修得に前向きになる工夫を図る。</li> </ul>	

重点項目	学校生活	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全意識の高揚</li> <li>基本的な生活リズムを整えることで、健康な心身を育て、学校生活の質を向上させる。</li> </ul>	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通事故が25年度3件、26年度5件、27年度2件発生している。</li> <li>スマホの操作や音楽を聴きながら自転車を運転するなど、安全意識に欠ける生徒がいる。</li> <li>1日の睡眠や食事などの基本的な生活リズムが確立していない生徒が多い。そのため、倦怠感等の体調不良を訴える生徒や、遅刻や欠席をくりかえす生徒がみられる。</li> </ul>	
達成目標	① 年間の事故件数	② 「生活リズムが大切」と意識が持てた生徒の割合
	ゼロ件	80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎朝登校指導を実施し、登校時や日常生活全般において時間に余裕を持って行動するよう指導する。</li> <li>年度初めに全校生徒対象に交通安全教室を実施し、安全意識を高めるとともに原付自転車通学生に対しても安全教室（実技・講義）を実施し、事故防止の徹底を図る。</li> <li>全校集会や年次集会等で、いのちの大切さを考える機会を持ち、自他のいのちを尊重する意識・態度を醸成する。</li> <li>車体検査を学期に1回実施し、十分に整備された自転車・原付自転車の使用を徹底する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒向けアンケートを実施し、生徒の1日の生活リズムの実態を把握する。</li> <li>生徒保健委員会による「保健だより」の発行を通して、生活リズムを確立することの大切さについて、啓発活動を実施する。</li> <li>生徒保健委員会主催による「朝食づくり講習会」を実施し、朝食の大切さを伝える。</li> <li>キャンパスフェスティバルで生徒保健委員会による「生活リズム講習会」を実施することによって、健康管理の大切さを生徒全員に伝える。</li> <li>学期末にアンケートを実施し、生徒自身の生活リズムについての自己評価を行わせることにより、健康管理への意識を高める。</li> </ul>
達 成 度	① 3件(平成29年3月1日現在)	② 67% (平成28年12月現在)
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎朝、登校指導を実施した。</li> <li>全校集会や年次集会、掲示物等を通して、いのちの大切さとともに交通ルール（自転車の危険運転14項目など）を説明し、交通安全に対する啓発をおこなった。</li> <li>全校生徒対象に交通安全教室を実施した。</li> <li>原付自転車通学生対象に交通安全教室（実技・講義）を実施した。</li> <li>自転車・原付自転車通学生対象に車体検査を2回（6月・10月）実施した。</li> <li>毎月2回（1日・15日）、街頭交通安全指導を実施した。</li> <li>生徒の自転車と自動車・原付との接触事故が3件あった。</li> <li>スマートフォンのながら運転などの交通違反が数件あった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月発行の「保健だより」を通じて、基本的な生活習慣の定着について啓発をすすめた。</li> <li>年度初めの生徒向けアンケートの結果「毎日朝食を食べる」生徒の割合は52%であり、全国平均より低い値であった。</li> <li>今年度のテーマを「朝食の大切さ」に絞り、キャンパスフェスティバルで生徒保健委員会による講習会（「朝食のちから」）を実施し健康管理の大切さを生徒全員に伝えた。</li> <li>「朝食メニューコンテスト」を実施し、朝食への生徒の興味・関心を高めた。</li> <li>事後アンケートを実施したところ、「朝食の大切さ」について「わかった」と答えた生徒が67%（「少しわかった」生徒を含めると97%であった）。</li> </ul>
評 価	B ほぼ達成した	B ほぼ達成した
学校評議員の意見	全校集会、交通安全教室等の機会を活かし、命の大切さを考える教育はとても大切。	朝食をしっかりと食べる大切さを理解させる取組は今後も継続してほしい。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通事故を未然に防止するため、いろいろな機会を通して、いのちの大切さ、交通ルール・マナーを守ることの大切さを伝え、安全意識が根付くように粘り強く指導していく。</li> <li>改正道路交通法（自転車の危険運転14項目）の周知徹底を図る。</li> <li>交通事故にあった場合、傷害が軽微であっても必ず相手（氏名、住所、電話番号、車のナンバー）を確認し、すぐ警察、自宅、学校等へ連絡することを徹底させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒保健委員会を中心とした活動を積極的に実施することができた。来年度もこの活動を継続・発展させる。</li> <li>生活リズムや基本的な生活習慣への意識を定着させ、生徒が自分自身で健康を管理する力を育てるために、年次と協力しながら、授業や講習会等を効果的に設定する。</li> </ul>

重点項目	進路支援	
重点課題	生徒一人一人の進路目標実現に必要な能力の育成	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習習慣が定着していないため、基礎学力に欠ける生徒がいる。</li> <li>・ 進路に対する意識が希薄で、明確な進路目標を持ってない生徒がいる。</li> <li>・ 自己表現力が乏しく、コミュニケーション能力に欠ける生徒がいる。</li> </ul>	
達成目標	① 卒業予定者の進路目標達成率  100%	② 1年次・2年次の2月時点で、進路希望調査において進学・就職を明確にできる生徒の割合  1年次生80%以上 2年次生90%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業を第一とし、基礎学力・基本的マナーを身につけさせるとともに、基礎学力コンテスト、年次別学習や放課後などの個別学習により、個々に応じた学力の向上を図る。</li> <li>・ 進路ノートの活用、職業研究、インターンシップ、上級学校・職場見学会、進路ガイダンス、進路特別講座などを実施し、進路意識の向上を図る。</li> <li>・ 特別支援が必要と思われる生徒の進路目標実現に向けて、関係機関・特別支援教育コーディネーター・保護者との連携を図りながらこれまでの経験を踏まえその指導法を検討する。</li> <li>・ 全教員及び生徒指導部との連携を図り、基本的な生活習慣の向上が進路目標実現に大きく関わっていることを共通認識しながら生徒への指導にあたる。</li> <li>・ 卒業予定者に対して、就職支援教員（JST）や校務運営委員、卒業年次担当外の教員とも進学・就職試験に向けた面接指導を実施し、社会人として必要なマナーや自己表現力を身につけさせる。</li> </ul>	
達成度	①  100%  就職 17名 進学 10名	② 進学・就職を明確にできる生徒の割合 (12月末現在)  1年次 69% 2年次 82%
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学力向上を目指し、基礎学力コンテストを実施した。(年間3回、国・数・英)</li> <li>・ 進路意識を高めるとともに、卒業後の職業選択について考えさせるため「上級学校・企業見学会」「進路ガイダンス」「進路特別講座(社会人講話)」「先輩講話」を実施した。</li> <li>・ 進路選択や進路適性について考えさせるため、2年次生に「インターンシップ」を実施したところ、15名の参加があった。(昨年10名)</li> <li>・ JSTと連携を取り合い、教員間で情報を共有して生徒への支援を行った。特に、3、4年次生の就職・進学者に対しての面接指導、2年次に対しての今後の意識付けのための面談など丁寧に行った。</li> <li>・ 学校全体が授業の大切さを自覚し、基礎学力の定着を図るとともに遅刻をしない・あいさつ、身なり、返事応答など授業を通じての基礎的生活習慣やマナーの習得に努力させた。特に、3・4年次に対しては粘り強い指導を行い、年次全体で進路に向けて頑張るという雰囲気を作るように努めた。</li> <li>・ 保護者に対して求人情報を閲覧できる時期を設定するなど、家庭における進路決定の話合いの材料を提供し、就職活動が円滑になるようにした。</li> </ul>	
評 価	A	目標を達成した
学校評議員の意見	進学・就職を明確にできない生徒に対し、目標の立て方の工夫を再検討してほしい。進路指導・キャリア教育、生徒・保護者・学校との連携は毎年効果的に行われている。	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コミュニケーション能力を高めるため就職希望者の面接練習はなるべく早くし充実したものにする。</li> <li>・ 各分掌がさらに密接に連携し、学校全体の目標の共有と協力による進路指導をする。</li> <li>・ 特別支援が必要な生徒に対する進路指導上のノウハウを蓄積する。</li> <li>・ 目標実現に向けて最後まで努力する態度の育成と助言指導のさらなる研究に努める。</li> <li>・ 本人の自己理解を深めるとともに、子供に対する保護者の理解を深める努力・工夫をする。</li> </ul>	

重点項目	特別活動			
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校行事への積極的な参加</li> <li>・ 読書習慣の定着</li> </ul>			
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集団活動や学校行事を苦手とし、行事になると欠席する生徒もいる。特定の人とは話せるが、大勢でのコミュニケーションを苦手とし、集団活動になじめない生徒がいる。</li> <li>・ 昨年度の年間一人あたりの図書貸し出し数は3冊に達したものの、書籍の内容では2割以上がコミックであり、一冊でも本校図書館で借りたことのある生徒は、全体の3割余である。</li> </ul>			
達成目標	① 学校行事(チャレンジデーⅠ、Ⅱ、Ⅲ)の出席率 ② 学校行事(チャレンジデーⅠ、Ⅱ、Ⅲ)の充実度	③ 本校図書館で図書を借りる生徒数(年間)	④は全校生徒の50%以上	
方 策	①は90%以上 ②は85%以上	③は全校生徒の50%以上		
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校訓「発見、挑戦、創造」の持つ意味の理解とその実践に努める。</li> <li>・ 生徒会を主体とした行事の企画・運営を行う。</li> <li>・ 行事における自分の役割を生徒に自覚させ、一人ひとりが行事に対してやりがいを持てるよう配慮する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 随時、新刊図書等の情報を提供し、読書に対する意識を高めて図書館の利用度を上げる工夫をする。</li> <li>・ 図書委員は積極的に委員会活動を行い、生徒全体に図書館活動への参加を促す。</li> <li>・ 読書週間に合わせて学校全体で本に親しむ機会を作り、授業やHRでの活用を促す。</li> <li>・ 個人購入図書や電子書籍、校外図書館等の貸し出し図書の推奨。後期にアンケートを実施する。</li> </ul>		
達成度	① 89.3% (92.4%) ( ) は長欠を除く ② 90% (充実していた+まあまあ充実してい	③ 48.5% (1月12日現在)		
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出席率に関しては、昨年に比べ3%UPした。通常授業に参加している生徒の92.4%が行事に参加している。</li> <li>・ 生徒会執行部が事前にアンケートを実施し、生徒の意見を行事に反映するよう努めた。</li> <li>・ 各行事において、生徒一人一人が行事運営上の役割を持つことで主体的な参加につなげるよう配慮し、働きかけた。</li> <li>・ 年次を中心とした教師の細やかな声かけや配慮、事前指導が、生徒の目的意識に繋がっており、行事の活性化に繋がった。</li> <li>・ 各行事における個々の役割を自覚することで、自分の存在を確認でき、充実感や自信につなげることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本屋大賞、直木賞などの受賞作品や、生徒からのリクエスト本を積極的に購入し、随時新刊案内を行った。</li> <li>・ 図書委員は委員会活動に必ず参加するように促した。無断欠席しない指導をし、一年を通じて図書館のディスプレイなどを行った。</li> <li>・ 読書週間では、昨年からはじめた「廊下文庫」を今年も実施し、生徒の身近なところに書籍を置いて読書の意識付けをした。</li> <li>・ 美術部員が読書感想画に応募する活動に参加したため、本を貸し出した。</li> <li>・ 各教科の先生方に、書籍を使った授業をしてもらうよう案内した。</li> </ul>		
評 価	A	目標を達成した	B	目標に近づいた
学校評議員の意見	一人一人に役割を自覚させ、充実感や達成感を味わわせ社会性や協調性を養ってほしい。		読書量の向上を目指し、様々なアイデアを出して取り組んでいる姿勢はよい。	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行事の出席率は、おおむね当初の目的は達成した。また、充実度においても平均90%と高い数値を得ることができた。ただし、アンケート未提出の生徒もおり、それら生徒の思いが気がりである。</li> <li>・ 生徒数の減少により、学校行事の企画・運営について、更に創意工夫をしていかなければならない。また、学校行事だけでなく部活動(数、あり方)についても検討していく必要がある。</li> <li>・ 遅刻の生徒への対応。ルールとマナーをしっかりと理解させる。</li> <li>・ 集団活動が苦手な生徒に対する配慮をしっかりとしながら、社会性を養う上でも参加を促していく。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今年度の年間貸し出し生徒数は、目標には達しなかったものの昨年度(31%)に比べて増えているので、今回の取組にさらに工夫を加えて継続したい。</li> <li>・ 生徒が興味をもって手に取りそうな書籍を購入し、図書委員が内容の分かりやすいポップカードを作って掲示する。</li> <li>・ 図書館からのお知らせは、図書委員が案内してクラスメイトに知らせ、積極的に行事に参加する。</li> <li>・ 図書館ニュースの個人配布は止め、カラー印刷で見やすいものを各クラスに掲示する。</li> <li>・ アンケートの意見を活かし、話題性の高い作品や生徒の心に響く作品を選択し、それらの案内掲示に工夫をして紹介する。</li> </ul>	

重点項目	その他(総合福祉科学習指導)	
重点課題	専門科目の意欲的な学習	
現 状	「地域で活躍する介護人材の育成」を指導目標として、日々の授業の中で介護のあり方を考えたり、知識・技術を定着させることに努力を要している。	
達成目標	介護技術の定着度(教員の評価による)	
	80%以上	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒に介護技術評価項目をわかりやすく示し、目標を明確化できるようにする。</li> <li>生徒同士の学びあいを活かして、相互に介護技術を高めさせる。</li> <li>関連授業の連携により介護技術を繰り返し練習させる。</li> <li>定期考査に、介護技術試験を行う。</li> <li>介護技術公開発表の場を設け、介護技術を実践できるように指導する。</li> </ul>	
達成度	80.2% (1年次 81.3% 2年次 71.6% 3年次 83.3%)	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>最初に各介護技術の根拠をしっかりと説明した後、実習に入ることを心がけた。</li> <li>ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業展開を試みた。特に、① 授業の目標→内容</li> <li>講義を含めた関連授業の担当者の情報交換を行い、連携に努めた。</li> <li>介護技術の繰り返しの練習や、その自己評価及び生徒同士の評価を行うことで自分の技術を振り返る機会を設けた。</li> <li>介護技術試験は、2・3年次は3回(前期1回、後期2回)、1年次は2回(前期1回、後期</li> <li>2月中旬に3年次生が1・2年次生の前で介護技術公開発表を行った。</li> <li>公開発表のために練習を重ねることでより技術が定着し、自信を持つことができ、1・2年</li> </ul>	
評 価	A	目標を達成した
学校評議員の意見	年次の段階を考慮した介護技術試験の実施や介護技術公開発表の工夫、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業展開などが生徒の意欲的な学習につながっている。	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護の原則や介護技術の根拠を明確に説明し、技術に生かせるよう指導する。</li> <li>関連授業の担当者間の情報交換及び連携に努める。</li> <li>各担当者の評価基準を統一するために、評価の研修を進める。</li> <li>特別支援を要する生徒に対するわかりやすい指導方法についての研修を深める。</li> <li>また、生徒の意欲を向上させる声かけや対応について共通理解を図る。</li> <li>介護技術公開発表の場を継続し、生徒同士の学び合いを勧める。</li> </ul>	